平成１７年１２月期　第１四半期財務・業績の概況（非連結）

平成 17 年 5 月 6 日

会　社　名　　株式会社ラックランド　　（コード番号：9612　東証第二部）
（URL　http://www.luckland.co.jp）
問い合わせ先　代表者役職・氏名　代表取締役社長　　望月　圭一郎　　Tel：(03) 3377－9331
　　責任者役職・氏名　取締役管理本部長　大竹　隆一

１．四半期業績の概況の作成等に係る事項

①会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無　　：　　有

税金費用の計上基準及びその他影響額が僅少なものについては、簡便な方法を採用しております。

②最近会計年度からの会計処理の方法の変更の有無　　：　　無

２．平成 17 年 12 月期第１四半期財務・業績の概況（平成 17 年 1 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日）

(1) 経営成績の進捗状況

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

	売　上　高	営 業 利 益	経 常 利 益	四半期(当期) 純　利　益
	百万円　　%	百万円　　%	百万円　　%	百万円　　%
17 年 12 月期第 1 四半期	2,473　(△1.6)	△64　(－)	△56　(－)	75　(－)
16 年 12 月期第 1 四半期	2,513　(27.5)	－　(－)	－　(－)	－　(－)
(参考)16 年 12 月期	14,628　(4.0)	872　(14.3)	870　(0.3)	457　(10.5)

	１株当たり四半期（当期）純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期(当期)純利益
	円　銭	円　銭
17 年 12 月期第 1 四半期	10　07	10　06
16 年 12 月期第 1 四半期	－　－	－　－
(参考)16 年 12 月期	54　54	54　48

（注）1. 売上高におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。
2. 売上高以外の項目につきましては、当第 1 四半期から開示を行っているため、前年第 1 四半期実績及び前年第 1 四半期増減率は記載しておりません。

[経営成績の進捗状況に関する定性的情報等]

《業績の季節変動について》

当社は、食品スーパーマーケットや外食産業の商業施設制作を主な事業としている関係上、業績は顧客の出店政策や出店計画の季節的変動の影響を受けております。このため、当社の売上高は第１四半期・第３四半期に比べ第２四半期・第４四半期が高くなり、さらに上半期よりも下半期の売上高が高くなるという、次表のような季節変動が見られます。

（単位；百万円）

		上半期			下半期			通期
		第１四半期	第２四半期	計	第３四半期	第４四半期	計	
平成 15 年 12 月期	売上高	1,971	4,079	6,050	2,805	5,209	8,014	14,065
	（構成比）	（14.0%）	（29.0%）	（43.0%）	（19.9%）	（37.0%）	（57.0%）	（100.0%）
平成 16 年 12 月期	売上高	2,513	4,410	6,923	2,784	4,921	7,705	14,628
	（構成比）	（17.2%）	（30.1%）	（47.3%）	（19.0%）	（33.6%）	（52.7%）	（100.0%）
平成 17 年 12 月期	売上高	2,473	―	7,000	―	―	8,000	15,000
	（構成比）	（ －% ）	―	（46.7%）	―	―	（53.3%）	（100.0%）

（注）平成 17 年 12 月期の第１四半期の数値は実績値、上半期・下半期及び通期の数値は公表数値であります。

《第１四半期の業績について》

上記のような季節的変動のもと、当社の第１四半期の売上高は 2,4７3 百万円（対前年同期比 1.6%減）となりましたが、これは新規顧客より受注した結婚式場施工がコンセプト変更により第２四半期に引渡期限が延期したことが主な要因であります。

営業利益は、収益確保という方針のもとコスト低減及び経費節減を継続して実施しておりますが、コアビジネスを安定的に維持する為の固定経費の影響により、△64 百万円となりました。

経常利益は借入金の抑制により借入金利息が減少したことにより△56 百万円となり、投資有価証券の売却益の発生により税引前第１四半期純利益は 136 百万円となりました。

これらの結果、第１四半期純利益は 75 百万円となりました。

今後も、企画・設計から施工、メンテナンスまでをワンストップで請け負うことのできる「総合力」に加え、店舗物件の紹介やテナント斡旋など、常にお客様の視点に立ったトータルサポートサービスの提供により、強い競争力を発揮し、業績向上に努める所存であります。

次に部門別売上高と各部門の営業概況は以下のとおりであります。

部門別売上高

期別 部門	平成 17 年 12 月期 第１四半期	平成 16 年 12 月期 第１四半期	前年同四半期増減率
	百万円	百万円	%
スーパーマーケット関連部門	1,526	1,225	24.6
フードシステム関連部門	806	754	6.9
営業開発部門	―	374	―
保守メンテナンス部門	140	159	△11.9
合計	2,473	2,513	△ 1.6

スーパーマーケット関連部門

スーパーマーケット業界においては、生鮮素材の売上高の減少が顕著に現れた反面「値頃感」の維持と販売方法の創意工夫に努めた一部の小売業においては、これを好機と捉え更なる出店攻勢に転じる傾向が見られました。また、既存店舗の改装を積極的に行ない店舗の鮮度感の維持に努める小売業も増えてまいりました。

このような環境下でトータルサポートサービスに努めた結果、スーパーマーケット関連部門の第１四半期の売上高は、1,526 百万円（対前年同期比 24.6%増）となりました。

フードシステム関連部門

外食業界においては、引き続き厳しい経営環境となっており、新規の出店抑制傾向が続いております。しかしながら、一部の外食業界では、既存店舗の業態変更への改装投資及び新たなる業態への積極的な投資を行なっており、あわせて地方都市でのトータルサポートサービスの推進に努めてまいりました。

このような状況下で、フードシステム関連部門の第１四半期の売上高は、806 百万円（対前年同期比 6.9%増）となりました。

営業開発部門
　営業開発部門の第１四半期の売上高はございませんでした。

保守メンテナンス部門
　機器の性能向上や修理依頼の手控え等によりメンテナンスコールは減少傾向にあるものの、冷凍機電力削減システム等の環境関連システム機器の販売や営繕修理提案活動を推進した結果、保守メンテナンス部門の第１四半期の売上高は、140 百万円（対前年同期比 11.9%減）となっております。

（２）財政状態の変動状況

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

	総　資　産	株 主 資 本	株主資本比率	１株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円　　銭
17 年 12 月期第 1 四半期	10,764	4,263	39.6	570　52
16 年 12 月期第 1 四半期	―	―	―	―　―
(参考)16 年 12 月期	12,045	4,443	36.9	588　03

[財政状態の変動状況に関する定性的情報等]
　総資産につきましては、107 億６千 4 百万円と前期末比 12 億 8 千 1 百万円（10.6%減）の減少となりました。これは、売掛債権（売掛金及び受取手形）が 13 億９百万円減少したことが主な要因であります。
　負債につきましては、65 億１百万円と前期末比 11 億円（14.5%減）の減少となりました。これは、有利子負債圧縮という方針のもと社債及び借入金を７億９千万円圧縮したことが主な要因であります。
　株主資本につきましては、42 億６千３百万円と前期末比１億８千万円（4.1%減）の減少となりました。これは、その他有価証券評価差額金が９千３百万円減少したことが主な要因であります。

３．平成 17 年 12 月期の業績予想（平成 17 年 1 月 1 日～平成 17 年 12 月 31 日）

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
中　　間　　期	7,000	350	200
通　　期	15,000	950	520

（参考）1 株当たり予想当期純利益（通期）　69 円 59 銭

［業績予想に関する定性的情報等］
　平成 17 年 12 月期業績は、概ね当初予想通りに推移しており、業績予想の修正はありません。

（注）上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以　　上

○　添付資料
　（要約）四半期貸借対照表、（要約）四半期損益計算書

【添付資料】

1.四半期（要約）貸借対照表

（単位：百万円未満切捨）

科　　目	当四半期 （平成17年12月期第1四半期末）		（参考） 平成16年12月期	
	金額	構成比	金額	構成比
（資産の部）		%		%
流動資産	7,543	70.1	8,618	71.6
現金及び預金	3,949		4,066	
受取手形	928		1,125	
売掛金	2,124		3,236	
たな卸資産	425		83	
その他	116		106	
固定資産	3,220	29.9	3,426	28.4
有形固定資産	1,737	16.1	1,743	14.5
建物	227		230	
土地	1,438		1,438	
その他	71		74	
無形固定資産	35	0.3	35	0.3
投資その他の資産	1,447	13.5	1,647	13.6
投資有価証券	1,309		1,509	
その他	137		138	
資産合計	10,764	100.0	12,045	100.0
（負債の部）				
流動負債	5,333	49.5	6,238	51.8
支払手形	2,011		1,641	
買掛金	2,188		2,697	
短期借入金	150		400	
一年以内返済予定長期借入金	465		427	
一年以内償還予定社債	48		498	
その他	469		573	
固定負債	1,168	10.9	1,362	11.3
社債	456		456	
長期借入金	622		750	
その他	89		156	
負債合計	6,501	60.4	7,601	63.1
（資本の部）				
資本金	1,524	14.2	1,524	12.7
資本剰余金	1,716	15.9	1,716	14.2
資本準備金	1,716		1,716	
利益剰余金	1,154	10.7	1,241	10.3
利益準備金	76		76	
任意積立金	668		669	
四半期（当期）未処分利益	409		495	
その他有価証券評価差額金	279	2.6	373	3.1
自己株式	△ 411	△ 3.8	△ 411	△ 3.4
資本合計	4,263	39.6	4,443	36.9
負債・資本合計	10,764	100.0	12,045	100.0

【添付資料】

1.四半期(要約) 損益計算書

(単位:百万円未満切捨)

科　　目	当四半期 (平成17年12月期第1四半期末)		(参考) 平成16年12月期	
	金額	百分比	金額	百分比
		%		%
Ⅰ. 売上高	2,473	100.0	14,628	100.0
Ⅱ. 売上原価	2,248	90.9	12,765	87.3
売上総利益	225	9.1	1,862	12.7
Ⅲ. 販売費及び一般管理費	289	11.7	990	6.7
営業利益(△営業損失)	△ 64	△ 2.6	872	6.0
Ⅳ. 営業外収益	18	0.7	106	0.7
受取利息	15		64	
受取配当金	0		12	
その他	3		28	
Ⅴ. 営業外費用	11	0.4	107	0.7
支払利息	4		28	
社債利息	3		13	
貸倒損失	―		59	
その他	3		6	
経常利益(△経常損失)	△ 56	△ 2.3	870	6.0
Ⅵ. 特別利益	192	7.8	116	0.8
投資有価証券売却益	187		36	
受取事業保険金	―		80	
その他	5		―	
Ⅶ. 特別損失	―	―	169	1.2
減損損失	―		148	
その他	―		21	
税引前四半期(当期)純利益	136	5.5	817	5.6
税金費用	60	2.5	360	2.4
四半期(当期)純利益	75	3.0	457	3.2
前期繰越利益	334		37	
四半期(当期)未処分利益	409		495	